

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297300028		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム袋井(東ユニット)		
所在地	静岡県袋井市堀越2-14-1		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果市町村受理日	令和5年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyogyoCd=2295300095-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺の環境面として、近隣に入居者様と一緒に散歩ができる大きな公園があります。天気の良い日には、散歩などにも出かけて気分転換を図っております。飲食店やホームセンターなども車で5分以内の場所が多く、外出の機会を持ちやすい環境に恵まれているため、事業所外の活動も定期的に行い、普通の生活が継続できるよう努めております。また、ご利用者様の心身の状況や認知症の症状について情報収集と分析を行い、適量の水分摂取や栄養改善、運動などのプログラムを実施し、心身の状態を整え、症状を改善・緩和させることによって、もう一度自分の思いを表出できるような状態をつくり、一人ひとりの当たり前の生活を実現し、その人らしく生きることを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「コロナ禍でも楽しみは維持したい」と、感染対策を徹底してバーベキューや流しそうめん、貸し切りのイチゴ狩りやドライブを企画・実行し、敬老会に招いた地域ボランティアの踊りに鳴子を振って興じたり、和太鼓の演奏時は地域への挨拶とともに来所を呼びかけて一緒に楽しんでいます。また、袋井祭りでは地区の屋台が立ち寄り、久しぶりの笛や太鼓の音色に涙ぐむ利用者もいて、地域交流が生み出す力を実感しています。一方で、エプロンを身にまとい職員と見まがう所作で役割を担う人もあり、張り合いのある暮らしを継続し、理念の「快適で穏やかな生活」に沿うよう一人ひとりの「快適さ」を追求しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を掲げその理念を掲示しながら、共有を図っている。	理念の中の「快適で穏やかな生活」が示す意味合いを掘り下げ、役割を担ったり趣味を継続したりと、一人ひとりに合った快適さを意識して介護計画に取り入れ実践しています。また、もう一つの理念「地域との触れ合い」がようやく動き出し、事業所の活気が戻りつつあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティア等の受け入れや、運営推進会議の定期的開催、地域の防災訓練参加や納涼祭への参加など行っているが、ホームから発信することがまだ少ない。コロナ禍もあり地域の活動、ボランティア受け入れ中止	感染症対策を講じつつ、今年度の敬老会には地域ボランティア「花笠会」を招き、数々の賑やかな踊りに鳴子を振って興じています。また、袋井祭りでは地区の屋台が立ち寄り、久しぶりの笛や太鼓の音色に涙ぐむ利用者もいて、地域交流が生みだす力の大きさを感じています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は認知症サポーター講座の講師参加など、認知症の関係で協力できることは行っていたが、コロナ禍もありできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて集まり自体ができず	新型コロナウイルス感染予防措置として書面開催が続き、2ヶ月ごとに入居者数と、行事活動やレクリエーション、外出等事業所での生活の様子がわかる写真を添えた議事録を市介護保険課、地域包括支援センター、正副自治会長、民生委員に手渡し、意見や要望を聴取しています。	地域代表が毎年交替する地域ですので、書面開催においても事業所の詳細が把握できる議事録を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からの連絡については、メール連絡が主であり、ホーム側からの連絡については内容の重要度を考え、電話やメール、実際に行政を訪問したりしている。	今年度の実地指導における指摘事項は迅速に是正を図るとともに、新型コロナウイルス感染症対策に関する情報は随時確認して対応しています。また、共用型デイサービスの運営についての相談や、地域包括支援センターとの連携で支援の必要な利用者の情報共有に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回の研修や予防週間の設定を行ない、身体拘束についての理解と予防を会社全体で行っている。	3ヶ月ごとの身体拘束廃止委員会では、ユニットリーダーが「虐待・不適切ケア、身体拘束防止チェックシート」を通じて日頃のケアを振り返り、改善策を協議しています。不適切ケアにつながる可能性がある職員のストレスにも着目し、チームケアでフォローしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダーには、チェックシートを2ヶ月おきに記入してもらい、各ユニット内での状況を確認し報告をしてもらうようになっている。		

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回ではあるが、全体会議内で研修を行っている。なかなか制度自体を全て理解できるような所までは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書等の読み合わせを行ない、説明を行なっている。不明な点があれば、随時問い合わせに返答を行っている。(管理者)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社にて毎年ご家族様アンケートを行ない、状況を把握している。結果はホーム内へ掲示する事と、問題点については対応策を検討し、ご家族様に対してもお便りにてアンケート結果を報告している。	今年度より法人アンケートを再開し、結果と対応策の進捗状況も開示しています。暮らしの様子は「福来老通信」で居室担当から生活面を、看護師から健康面を個別に記述し、A3紙面に豊富に掲載された写真は「毎月これを見て安心できる」と家族から高評価を得ています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行ない、職員の要望を確認している。契約社員については、契約締結前には必ず行っている。正社員については、随時行う形である。	個人面談は3ヶ月に一度の実施としていますが、表情や現場職員からの報告から必要に応じて声をかけ、随時面談をおこなっています。毎月のユニット会議には管理者も出席して職員一人ひとりからの発言を促し、風通しのよい職場環境を醸成しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	マネージャーにて、各ホームの点検を行ない、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社にて研修を担当する部署があり、管理者の研修や新卒スタッフ研修なども積極的に行なっている。中途採用のスタッフについては、各エリアマネージャーが中心となり、研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は近隣のグループホームとの交流があり、運営推進会議への参加やお互いの行事への参加もあったようだが、現在は行っていない。		

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、家族に記入して頂いた情報をもとに、まずは傾聴を心掛けるようにしている。信頼関係を築く事を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームへ入居するに当たり、聴き取りができる範囲で困っている事、不安な事について伺っている。しかし、家族関係など言いにくいことなどがあった場合、入居されてからわかる事もある為、随時調整を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプランへ反映できることは行っているが、入居されてからわかってくこともある為、随時ケアプランへ織り込む形を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なかなか出来ていないのが現状である。どうしても職員のペースで行ってしまう事が多くなってしまう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かがあればご家族にすぐ連絡し来て頂いたりして、共に本人を支えていく関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居される前に趣味で行っていた句会への参加を途切れないように、送迎なども行い続けていたが、現在は行えていない。	新型コロナ第7波が減少傾向に転じた時期に面会を対面可能としましたが、新規陽性者数が前週を上回る日が続く状況を鑑み、玄関横の会議室にアクリル板を設置して、マスク装着と問診票の記入、離れた距離で十分な換気のもと、家族や友人との面会をおこなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などや性別なども考慮し、利用者同士が支え合って生活できるように努めている。(食席の考慮など)		

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的には行っていないが、クレーム等の考えから、ご家族様から要望があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話などから、思いや意向を知ることを心掛けているが、なかなか出ていない状況である。どうしても職員主導になりがちである。	会話で聞かれた言葉や垣間見える表情から「やりたいこと」や「思い」を汲み取り、申し送りノートで共有して実現できるようにしています。さらに、利用者担当が日頃の気づきを加えて「サービス担当者会議資料」を作成し、モニタリング時に提示しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聴き取りを行ない、生活歴の把握に努めている。(聴き取りは、ご家族様が主となる)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時にアセスメントを行ない、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス(ユニット会議)を行ない、意見を出し合い、介護計画を作成している。ご家族様には、電話や面会の時に話を伺っている。	毎月のユニット会議で「サービス担当者会議資料」をもとにカンファレンスをおこない、計画作成担当が作成した介護計画を介護支援専門員がチェックしています。電子化によりサービス内容実施の有無が記録に直結し、その実践は明白です。	コロナ禍で制限はありますが、援助内容の担当者が職員以外の家族や社会資源等、支援の輪が広がることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録があり、生活における記録をつけている。情報共有しなければいけないことは、書面にして伝えたり、連絡ノートに記入しユニット内の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型デイサービスも2021年4月より開設現在は人不足にて受け入れができていない。		

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内の取り組みだけにこだわらず、インフォーマルサービスを活用した取り組みも行っている。地域の俳句の会や敬老会など参加していたが、コロナ禍もあり行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の確認を行っているが、今までの所が良いようであれば、無理に主治医の変更は求めていない。しかし、実際には受診の付添いの関係により、ホームの往診を希望されるご家族がほとんどの状況。	24時間連絡が可能な協力医に全員が変更し、接骨院や泌尿器科等の専門医は現在、管理者若しくは看護師が受診支援をおこなっています。訪問診療の際は看護師と薬剤師が立ち合い、往診ノートに結果を記載しています。歯科は月2回訪問があり口腔ケアの指導もおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1~2回の勤務(7時間)ではあるが、限られた時間の中で体調管理を中心に行ない、普段の状況を的確に伝えるように努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送される病院が開催する情報交換会には参加をしている。入院した際には、情報提供を社内の書式にて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応などについても、書面にて説明と同意を頂く書類を準備している。特に看取りについてのホームでの考え方については、しっかりと説明を行っている。	入居時には終末期のあり方についての意向の把握が難しいため、体調変化がみられた時に医師の判断と説明を踏まえ、その都度「どのように最期まで生活することを望み、それが事業所で可能か」について繰り返し家族と話し合いをもち、最善の選択ができるようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご家族様への緊急時連絡ファイルを整備し、急変や事故の発生に備えている。研修の中でシミュレーションを行ない、実際に起こった時を想定し、対応方法を勉強した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回の訓練(法律上の必要回数)を実施している。地域の方も参加できる形が良いと思われるが、まだ実施できていない状況。	地震~火災における避難訓練を日中・夜間想定で実施しています。初期消火~通報~避難までの流れは周知されているものの、夜勤帯の指定避難場所への移動は近隣職員が応援に駆けつけることを考慮しても、迅速な避難には地域との協力体制の構築が必至となっています。	運営推進会議議事録を通して事業所に入居している人の介護度やリスク(事故報告)等、情報を共有することで、支援の必要性への理解が進むことを期待します。

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	禁止用語の掲示など、言葉使いにはきをつけて声掛けをしているが、なかなか全ての職員ができていくわけではなく、改善が必要。	人格を尊重し、自尊心を傷つけない対応を学ぶ 接遇研修を入職時に設け、不適切ケアチェックシートで再確認しています。介助時もトイレのドアは閉める、大きな声で排泄の声かけをしない、利用者を隔てた場所で職員同士の会話をしない等、気になる言動は互いに注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類などについては、自分で選択できる方は行って頂いているが、どうしても同じ服に偏りがちである為、職員が立ち会うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務フロー的な部分で動いてしまう傾向があり、利用者一人一人の希望に沿ってすべてで来ているわけではない。それに向けて努力は行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んで頂き、お化粧品もさされている。爪や髪などについても気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みによって、ランチョンマットを使用されている方もいる。その日の状況によってでもあるが、お箸をセットしたり食事の配膳を行ったりして頂く。	エプロン姿の女性利用者が「男の人は座って」と世話好きな一面をのぞかせる場面もあり、お茶を淹れる、ランチョンマットを準備する、箸を配るなど6名が食事準備に参加しています。夏のバーベキューや流しそうめん、ハロウィンの南瓜料理など心も弾む特別メニューが目白押しです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理については、本社にて献立を作成している。水分量は毎日チェック表をつけて管理している。(毎日1000mlは飲むように心掛けている)飲みすぎてしまう方もいるため、注意をする場合もあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の訪問歯科と口腔ケア(朝・夕が基本)を行ない、誤嚥性肺炎などの予防を行っている。		

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人ごとに排泄表をつけながら、排泄のパターンを理解しトイレでの排泄の援助や、失禁にて不快な思いをさせないように努力を行っている。	自立支援ケアの取組でトイレでの排泄が習慣化し、紙パンツから布パンツになった人もいます。夜間は安眠優先ですが、時間を見てトイレの声をかけをする人もいます。便秘対策には水分量を増やしたり、長い廊下を往復して身体を動かす等、下剤に頼らない方法を模索しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量を管理し、運動への働きかけは近くの公園などへ散歩に出掛けている。日報への便秘日数記入により、職員の便秘への意識を高めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は午前中の中の入浴が主であるが、行事の関係や季節によっては外出を行う事をメインに、午後の時間に入浴を行う事もあり。声掛けにて入浴して頂き、無理強いはいしない。	週2回を目安とし、一人ひとり湯を入れ替え、多い時には5種類の入浴剤から選んでもらったり、「一人で入るのは淋しい」と友人と連れだって銭湯気分を楽しめる人もいます。また、浴槽をまたぐことが困難になっても職員3人で安全に浴槽に浸かれるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子を使用されている方や、足の浮腫が目立つ方は午後の時間など、横になって頂く機会を持つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所に全利用者が処方されている薬の一覧を準備している。各ユニットにも、処方内容がわかるようにコピーしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味的な事については、その方が何が好きなかを把握して、外出やホーム内での過ごし方に役立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍にて家族や地域の方々との外出ができない状態が続いている。職員が花見、いちご狩りなど考え外出している。	午前九時半頃から(夏は夕方)、ほぼ毎日散歩時間を確保し、全員が行けるようにしています。また、人出の少ない曜日や時間帯を選んで花鳥園、初詣、花見等ドライブに出かけ、車いすでも利用可能なイチゴ狩りは、貸し切りで甘いイチゴを堪能しています。	

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、職員が管理しているが、外出時にお金を手渡し払って頂くこともある。しかし、被害妄想などのある場合などには、出来ない場合が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があれば、事務者など落ち着いた場所でかけてもらうようにしている。手紙については、書かれる方が少なく積極的には行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに四季に合った飾りつけをしたり、室温についても、温度管理に気を配っている。	ハロウィン、紅葉、クリスマスと、月ごとの担当職員が季節の飾り付けをしています。早番が居室、リビング、廊下の清掃と換気をおこない、コンタクトポイントは朝夕必ず拭き上げて念入りな感染対策をおこなっています。毎朝一緒に掃除機やモップを掛ける利用者の姿もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやご自分の席で過ごされたり、気の合った利用者同士での居場所に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅から持ってこられるものは持って来て頂き、自宅の部屋を再現できるように、家族へお願いをしている。入居されてからも、動線を意識しリスクの少ないレイアウトを心掛けている。	自宅から持ち込まれたものは本人や家族と相談してレイアウトを決め、亡くなった夫の遺影が飾られていたり、位牌に手を合わせる人もいます。日中はリビングで過ごす人が多く、加湿器や温度、明るさの調整、好みの枕や布団を用意して夜間安眠できるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドサイドの手摺のレンタル(車椅子使用の方)や言葉のカードの作成(難聴の方)など、相手の気持ちになり、極力自立した生活ができるように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297300028		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム袋井(西ユニット)		
所在地	静岡県袋井市堀越2-14-1		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果市町村受理日	令和5年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyogyoCd=2295300095-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺の環境面として、近隣に入居者様と一緒に散歩ができる大きな公園があります。天気の良い日には、散歩などにも出かけて気分転換を図っております。飲食店やホームセンターなども車で5分以内の場所が多く、外出の機会を持ちやすい環境に恵まれているため、事業所外の活動も定期的に行い、普通の生活が継続できるよう努めております。また、ご利用者様の心身の状況や認知症の症状について情報収集と分析を行い、適正量の水分摂取や栄養改善、運動などのプログラムを実施し、心身の状態を整え、症状を改善・緩和させることによって、もう一度自分の思いを表出できるような状態をつくり、一人ひとりの当たり前の生活を実現し、その人らしく生きることを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「コロナ禍でも楽しみは維持したい」と、感染対策を徹底してバーベキューや流しそうめん、貸し切りのイチゴ狩りやドライブを企画・実行し、敬老会に招いた地域ボランティアの踊りに鳴子を振って興じたり、和太鼓の演奏時は地域への挨拶とともに来所を呼びかけて一緒に楽しんでいます。また、袋井祭りでは地区の屋台が立ち寄り、久しぶりの笛や太鼓の音色に涙ぐむ利用者もいて、地域交流が生み出す力を実感しています。一方で、エプロンを身にまとい職員と見まがう所作で役割を担う人もあり、張り合いのある暮らしを継続し、理念の「快適で穏やかな生活」に沿うよう一人ひとりの「快適さ」を追求しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を掲げその理念を掲示しながら、共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア等の受け入れや、運営推進会議の定期的開催、地域の防災訓練参加や納涼祭への参加など行っているが、ホームから発信することがまだ少ない。コロナ禍もあり地域の活動、ボランティア受け入れ中止		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は認知症サポーター講座の講師参加など、認知症の関係で協力できるところは行っていたが、コロナ禍もありできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて集まり自体ができず		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からの連絡については、メール連絡が主であり、ホーム側からの連絡については内容の重要度を考え、電話やメール、実際に行政を訪問したりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回の研修や予防週間の設定を行ない、身体拘束についての理解と予防を会社全体で行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダーには、チェックシートを2ヶ月おきに記入してもらい、各ユニット内での状況を確認し報告をしてもらうようになっている。		

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回ではあるが、全体会議内で研修を行っている。なかなか制度自体を全て理解できるような所までは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書等の読み合わせを行ない、説明を行なっている。不明な点があれば、随時問い合わせに返答を行っている。(管理者)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社にて毎年ご家族様アンケートを行ない、状況を把握している。結果はホーム内へ掲示する事と、問題点については対応策を検討し、ご家族様に対してもお便りにてアンケート結果を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行ない、職員の要望を確認している。契約社員については、契約締結前には必ず行っている。正社員については、随時行う形である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	マネージャーにて、各ホームの点検を行ない、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社にて研修を担当する部署があり、管理者の研修や新卒スタッフ研修なども積極的に行なっている。中途採用のスタッフについては、各エリアマネージャーが中心となり、研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は近隣のグループホームとの交流があり、運営推進会議への参加やお互いの行事への参加もあったようだが、現在は行っていない。		

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、家族に記入して頂いた情報をもとに、まずは傾聴を心掛けるようにしている。信頼関係を築く事を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームへ入居するに当たり、聴き取りができる範囲で困っている事、不安な事について伺っている。しかし、家族関係など言いにくいことなどがあった場合、入居されてからわかる事もある為、随時調整を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプランへ反映できることは行っているが、入居されてからわかってくこともある為、随時ケアプランへ織り込む形を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なかなか出来ていないのが現状である。どうしても職員のペースで行ってしまう事が多くなってしまう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かがあればご家族にすぐ連絡し来て頂いたりして、共に本人を支えていく関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にてできていない		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などや性別なども考慮し、利用者同士が支え合って生活できるように努めている。(食席の考慮など)		

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的には行っていないが、クレーム等の考えから、ご家族様から要望があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話などから、思いや意向を知ることが心掛けているが、なかなか出ていない状況である。どうしても職員主導になりがちである。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聴き取りを行ない、生活歴の把握に努めている。(聴き取りは、ご家族様が主となる)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時にアセスメントを行ない、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス(ユニット会議)を行ない、意見を出し合い、介護計画を作成している。ご家族様には、電話や面会の時に話を伺っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録があり、生活における記録をつけている。情報共有しなければいけないことは、書面にして伝えたり、連絡ノートに記入しユニット内の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型デイサービスも2021年4月より開設現在は人不足にて受け入れができていない。		

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内の取り組みだけにこだわらず、インフォーマルサービスを活用した取り組みも行っている。地域の俳句の会や敬老会など参加していたが、コロナ禍もあり行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の確認を行っているが、今までの所が良いようであれば、無理に主治医の変更は求めていない。しかし、実際には受診の付添いの関係により、ホームの往診を希望されるご家族がほとんどの状況。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1~2回の勤務(7時間)ではあるが、限られた時間の中で体調管理を中心に行ない、普段の状況を的確に伝えるように努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送される病院が開催する情報交換会には参加をしている。入院した際には、情報提供を社内の書式にて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応などについても、書面にて説明と同意を頂く書類を準備している。特に看取りについては、しっかりと説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご家族様への緊急時連絡ファイルを整備し、急変や事故の発生に備えている。研修の中でシミュレーションを行ない、実際に起こった時を想定し、対応方法を勉強した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回の訓練(法律上の必要回数)を実施している。地域の方も参加できる形が良いと思われるが、まだ実施できていない状況。		

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	禁止用語の掲示など、言葉使いにはきをつけて声掛けをしているが、なかなか全ての職員ができていくわけでは無く、改善が必要。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類などについては、自分で選択できる方は行って頂いているが、どうしても同じ服に偏りがちである為、職員が立ち会うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務フロー的な部分で動いてしまう傾向があり、利用者一人一人の希望に沿ってすべてで来ているわけではない。それに向けて努力は行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んで頂き、お化粧品もされている。爪や髭などについても気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みによって、ランチョンマットを使用されている方もいる。その日の状況によってもあるが、お箸をセットしたり食事の配膳を行ったりして頂く。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理については、本社にて献立を作成している。水分量は毎日チェック表をつけて管理している。(毎日1000mlは飲むように心掛けている)飲みすぎてしまう方もいるため、注意をする場合もあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の訪問歯科と口腔ケア(朝・夕が基本)を行ない、誤嚥性肺炎などの予防を行っている。		

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人ごとに排泄表をつけながら、排泄のパターンを理解しトイレでの排泄の援助や、失禁にて不快な思いをさせないように努力を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量を管理し、運動への働きかけは近くの公園などへ散歩に出掛けている。日報への便秘日数記入により、職員の便秘への意識を高めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は午前中の中の入浴が主であるが、行事の関係や季節によっては外出を行う事をメインに、午後の時間に入浴を行う事もあり。声掛けにて入浴して頂き、無理強いはいしない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子を使用されている方や、足の浮腫が目立つ方は午後の時間など、横になって頂く機会を持つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所に全利用者が処方されている薬の一覧を準備している。各ユニットにも、処方内容がわかるようにコピーしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味的な事については、その方が何が好きなのかを把握して、外出やホーム内での過ごし方に役立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて家族や地域の方々との外出ができない状態が続いている。職員が花見、いちご狩りなど考え外出している。		

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、職員が管理しているが、外出時にお金を手渡し払って頂くこともある。しかし、被害妄想などのある場合などには、出来ない場合が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があれば、事務者など落ち着いた場所でかけてもらうようにしている。手紙については、書かれる方が少なく積極的には行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに四季に合った飾りつけをしたり、室温についても、温度管理に気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやご自分の席で過ごされたり、気の合った利用者同士での居場所に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅から持ってこられるものは持って来て頂き、自宅の部屋を再現できるように、家族へお願いをしている。入居されてからも、動線を意識しリスクの少ないレイアウトを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドサイドの手摺のレンタル(車椅子使用の方)や言葉のカードの作成(難聴の方)など、相手の気持ちになり、極力自立した生活ができるように配慮している。		